

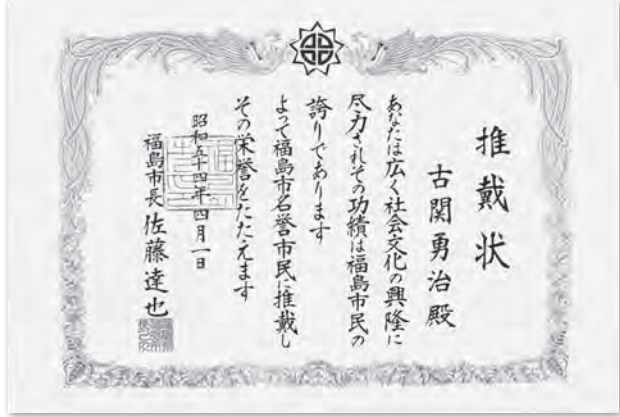
# ふくる通信

The Fukushima tourist information center communication

## 作曲家・古関裕而物語

発行／福島市観光案内所  
〒960-8031 福島県福島市栄町1-1  
TEL 024-531-6428  
FAX 024-531-8165  
URL <http://www.f-kankou.jp>  
E-mail [kankou@f-kankou.jp](mailto:kankou@f-kankou.jp)

こちらにふくしま 検索  
E-mail [kankou@f-kankou.jp](mailto:kankou@f-kankou.jp)



名誉市民推戴状



名誉市民章

### 古関メロディが流れる街・ふくしま

#### 福島市名誉市民第二号 古関裕而

福島市には、昭和三十三年に制定された「福島市名誉市民条例」があります。この条例は「本市に縁故のある者で、広く社会文化の流行に尽し、市民が郷土の誇りとして深く尊敬に値すると認める者」を、福島市名誉市民に「推戴」するものですが、施行後、約二十年間にわたり名誉市民の推戴はありませんでした。昭和五十四年、福島市出身であり、昭和を代表する作曲家である古関裕而（本名：古関勇治）が、作曲生活五十周年を迎えるとともに、「東京オリンピックマーチ」「栄冠は君に輝く」「スポーツショー行進曲」など、誰もが必ず一度は耳にしたことのある、数々の名曲を世に送り、郷土福島を広く紹介した功績が認められ、初の名誉市民として推戴されました。

古関は推戴式で「いつもふる里の吾妻山や信夫山、阿武隈川を思い出して作曲してきました。福島市に生まれ育って本当に良かった。これからも作曲活動を通して、市のため仕事を続けていきます。」と述べています。

それから三十年以上が経ちますが、今をもっても福島市名誉市民は古関ただ二人であり、それだけ古関が偉大な存在であることがうかがい知れます。

平成二十二年八月に古関裕而は生誕一〇〇年（没後二十年）を迎え、福島市では様々な顕彰事業が開催されました。JR福島駅では、新幹線発車メロディが「栄冠は君に輝く」に、在来線発車メロディは「高原列車は行く」となりました。当時はどうしてこのメロディが流れているの？と不思議に思われる方々が大勢いましたが、今では福島市の玄関口を訪れる方々をお迎えする、そして福島から旅立つ方々をお送りするメロディとして定着しています。

また、JR福島駅東口には古関裕而生誕一〇〇年記念モニュメントが設置されています。時報とともに古関メロディが流れ、行き交う人々を癒すとともに、駅前のシンボルとして多くの市民に親しまれています。

福島市に今も息づく古関メロディ。福島が生んだ昭和を代表する作曲家・古関裕而をここに紹介いたします。

「ふくる」とは…「福島に来る」と「福が来る」を掛け合わせた言葉です。福島市にお越しくださった皆さまに「福」が「来る」事を祈るとともに、福島市の魅力をたくさん知っていただきたいと願います。

## ふくしま この人・魅力人

地域で活躍する人にスポットをあて、福島市の魅力を発信していくコーナーです。今回は古関裕而記念館で Hammondオルガンの伴奏を行っている相原節子さんにお話を伺いました。

古関裕而記念館では日曜日などの午前十一時三十分から午後一時まで古関裕而が愛用していた Hammondオルガンが奏でる音色に合わせ古関メロディを歌う催しが行われています。ボランティアで Hammondオルガンの伴奏をしているのが「福島オルガンの会」の相原節子さんです。相原さんは「毎週行っているこの活動でお客様が元気になり喜ぶ姿を見ると楽しくやりがいを感じる。何より自分自身も楽しんで活動をしている。気が付けば活動も十年経っていた。」とおっしゃいます。

活動のきっかけとなったのは記念館で開催されたクリスマスコンサートに出演したことだったと言います。古関メロディを演奏した際、音を奏でる事もなく展示のためだけに置かれている Hammondオルガンを見て「とてももったいない。先生愛用の Hammondオルガンで古関メロディを演奏できたらどんなに素敵



相原節子さん

だろう。」と思い、演奏させてほしいと願い出たところ翌月よりすぐに活動がはじまりました。初めは福島ハミングコールに所属する方の参加が中心だったそうですが、次第に人伝いに広がり毎週参加するお客様も増えていったそうです。「とんがり帽子」や「高原列車は行く」など代表的な曲からはじまった古関メロディも今では五十曲近く伴奏するようになり、相原さんご自身もこの活動を通して覚えた曲が多いと言います。「何より、先生が愛用していた Hammondオルガンで古関メロディを伴奏させていただけることがありがたい。」と話してくださいました。

これまでの活動で印象に残っていることについて伺いますと「東北六魂祭が開催された時に行った演奏会」とおっしゃいます。県外からいらしたお客様や古関メロディを知らない方々に古関メロディを知って頂くよい機会となり活動を続けてきたことへの喜びを感じることが出来た瞬間でもあったそうです。今後については「若い人たちは古関メロディを知らない方々が多いようです。ぜひ、若い人たちに参加して頂き古関先生を知っていただきたいです。決まりごとは何もありません



古関メロディを歌おう

ので気軽に参加していただければ。」と想いをお話しくださいました。相原さんの素敵な伴奏が古関メロディを歌い紡いでいます。※開催日等については、古関裕而記念館へお問い合わせください。

### モスラの歌

作詞：由紀こうじ（昭和36年）

昭和36年に東宝により公開された映画「モスラ」で劇中に使われた曲です。

ザ・ピーナッツ扮する小美人がモスラを呼び出す歌として作曲され、日本の劇中音楽のなかでも、今なお多くの人々の耳に残っている曲の一つと言えるでしょう。

作詞の「由紀こうじ」は、田中友幸、本多猪四郎、関沢新一の3人の共同ペンネームであり、当初、歌詞は日本語で書かれ、インドネシア語に翻訳されて使われました。

劇中に使われた多くの音楽（効果音楽）も古関が担当しましたが、古関メロディの懐の深さをうかがい知ることができます。

### 別れのワルツ

スコットランド民謡（昭和24年）

スコットランド民謡「Auld Lang Syne」（オールド・ラング・サイン。日本では「蛍の光」として有名）が、昭和24年公開のアメリカ映画「哀愁」で効果的にアレンジされました。そのアレンジを参考に、古関裕而が新しく手を加え（編曲）、コロムビアの洋楽盤「別れのワルツ」「Farewell Waltz」として発売されました。

そのレコードには、古関裕而の名前をもじった、編曲：ユージン・コスマン、演奏：ユージン・コスマン管弦楽団と表記されていた上、レコード規格が洋楽規格でしたので、当時の人々は外国録音のレコードと信じて疑わなかったといえます。

現在でもデパートやレストランなどの閉店時のBGMとして使われている「あの曲」です。

### 六甲おろし

作詞：佐藤惣之助（昭和11年）

正式名称「阪神タイガースの歌」ですが、一般的には「六甲おろし」として今もなお、阪神ファンに親しまれています。

作曲当時は、「大阪タイガースの歌」でしたが、現存するプロ野球球団のなかでも、最も古い球団歌です。

作詞を担当した佐藤惣之助は、神奈川県川崎市の出身であり、佐藤の生家跡地は現在、川崎信用金庫本店となっており、敷地内に「佐藤惣之助生誕の地碑」が建っております。

なお、川崎信用金庫の社歌は、古関裕而の作曲というのも、「偶然」という言葉では言い表せない「縁」を感じさせます。

また、「巨人軍の歌」（関魂込めて）も古関裕而作曲（昭和38年）であり、ライバル同士の球団歌を作曲しているのも古関の特筆すべき点でしょう。

### 編集 後記

●福島市が誇る作曲家・古関裕而。世界的に有名な作曲家ですが、古関の故郷・福島市でも若い方を中心に関心が薄れてきています。ふくる通信の発刊を通して、自分の見聞を広げられ、市民をはじめ多くの方に古関裕而の功績を広め、再認識する機会になりました。（円盤餃子大好きこ）

●この仕事を終えてからの私は古関裕而の福島を愛する気持ちがひしひしと感じるようになり、日頃何気なく映っていた歌碑や塔を眺めて歌が愛おしくさえ思えます。ちなみに私の愛唱歌は「高原列車は行く」（元氣な福島が好きですH）

●しっかりと古関メロディに触れたのは、実は今回が初めてでした。時代が移り変わっても古関裕而の愛した福島がそこにあるようで、変わることなく受け継がれるメロディに深い郷愁を覚えました。（良い人生には花と酒の幸）

●「作曲：古関裕而」私が身近に触れた曲、それは中学・高校の「校歌」でした。当時はどれだけすごい作曲家なのかわからずに歌っていました。古関裕而の功績を振り返りその偉大さをあらためて再認識。古関作曲の校歌が2つもある事を誇りに思います。



小特集

作曲家・古閑裕而物語



古閑裕而の誕生と福島商業学校時代

日本を代表する作曲家 古閑裕而は、明治四十二年（一九〇九）年八月十一日、福島市大町にある市内有数の呉服店 喜多三に生まれました。音楽好きだった父は、大正初期では珍しい蓄音機を購入し、余暇には主に浪曲のレコードをかけていました。これが古閑裕而の音楽との出会いです。古閑は民謡や吹奏楽が好きで、小学校の頃から作曲を始めるようになりました。古閑は自伝の中で「教室の中ではおとなしく目立たない存在だった。が、作曲となると夢中になるので、次第にクラスメイトは詩を書いて、私のところに持ってくるようになっていった。頼まれるから人の分まで作る。できると楽しい。そんな繰り返しで知らず知らずのうちに作曲することに親しんでいった。」と語っています。

大正十年、古閑は福島県立福島商業学校に入学。家業である呉服店を継ぐためでしたが、第一次世界大戦終結の影響で日本は大変なインフレとなり家業をた



喜多三

り家業をたむことになりました。しかし、ソロボンの玉よりも音符のタマの方が好

きた。古閑は、山田耕筰の曲に多大な影響を受けながら作曲に熱中するようになっていきます。卒業するころには「福島ハーモニカ・ソサィティ」への入会や、近代音楽家のレコードコンサートを開催していた「火の鳥の会」にも頻繁に通うようになり、そこで古閑はドビュッシーやストラヴィンスキー、ムソルグスキーの曲と出会い強烈な衝撃を受けました。以来、近代フランスやロシアの音楽に夢中になります。

音楽浪人と銀行員時代

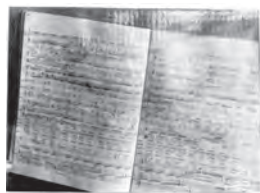
商業学校を卒業した古閑は、音楽学校進学を夢見ながらもその決心がつかず、音楽生活に明け暮れているうちに、「二年が過ぎていました。そんなある日、「家でブラブラしているなら、銀行に勤めないか」と川俣銀行で頭取をしていた伯父武藤茂平に声をかけられ、行員として勤めることとなります。川俣町は福島市から二十キロほど東にあり、絹の産地でした。小さな町の銀行で古閑は、大きな帳簿の間に五線紙を挟んでは、愛唱していた北原白秋や三木露風の詩集の中から好きな詩を選んで作曲したりしていました。銀行に勤めるようになったものの、それまで以上に音楽熱は高揚していきます。古閑は「大決心をして学生時代からの憧れである山田耕筰に作品を送り、数回手紙の往復をおこないます。これが後に、古閑の人生に大きな転機を

もたらすことになりました。

また川俣銀行時代とその直後、古閑にとって大きな出来事が起こっています。つば、ロンドン・チェスター楽譜出版社募集のコンクールでの「竹取物語」（他四曲）二位入選。二つ目は、「竹取物語」二位入選の新聞記事が縁で、愛知県豊橋市の内山金子と文通し、出会いからわずか半年で電撃的な結婚をしたことです。

舞踊組曲「竹取物語」の入選

昭和四年七月にロンドンに送った舞踊組曲「竹取物語」（他四曲）は、世界中の一流作家をしのいでの二位入選となり、作曲家の古閑裕而誕生を決定づけました。当時の新聞ではセンセーショナルに取り上げられ、伝統と学歴を重視する日本音楽界の中で前代未聞の出来事としてとらえられました。古閑は「竹取物語」の概略と内容構成を「福島商業学校五年生の時より始めて昨年五月完成。作曲の動機。五年ほど前レコードでストラヴィンスキーの『火の鳥』の組曲を聞いて、それからヒントを得、我が国に存在する古代物語中最古の、有名な『竹取物語』（かぐや姫）に取材した。」と話しています。この受賞で、イギリスへの音楽留学が約束されましたが、実家の経済状況、そして内山金子との結婚のため断念するしかありませんでした。



竹取物語

済状況、そして内山金子との結婚のため断念するしかありませんでした。

コロムビア入社とデビュー曲



船頭可愛いや

昭和五年の夏、古閑の日本コロムビアから専属の作曲家になつてくれないかという朗報が飛び込みます。コロムビアの専属作曲家であり顧問でもあった山田耕筰が、かつての手紙のやり取りが縁で古閑を推薦したのです。

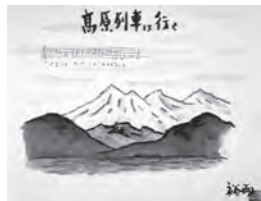
昭和六年の五月に第二回発売のレコードの話がまとまり、古閑の同郷で先輩、のちにコロムビア専属作詞家になった野村俊夫とかつて制作した「福島行進曲」がデビュー曲として選ばれました。「記念すべきデビュー曲は故郷に捧げるつもりであつた」と自伝で述べています。また、最初のレコードの裏面に郷里に関するもので「福島夜曲（セレナーデ）」が選ばれました。この曲は、福島で竹下夢二展が開かれたときに、竹下夢二が福島滞在中に作った詩に曲をつけたものです。

デビュー曲は期待とは裏腹に売り上げが伸びませんでした。入社五年目の昭和十年、大海の豪快な漁師を想う「船頭可愛や」が庶民の心を捉え大ヒットしました。

戦時歌謡とレニーマンバム



満州事変や二度にわたる世界大戦という激動の時代、古閑は「戦時歌謡」を残しています。現在は、戦時



高原列車は行く

は「古閑さんは詩を大事にして、詩のイメージを作曲に活かしてくれる。」と話しており、二人は口ずさみたくさんするような歌詞と軽快なメロディを数多く残しています。

作曲家の高みへ



昭和三十一年十月十日、アジア初の東京オリンピックの開催が決まり、古閑は長年の作曲活動を高く評価され「オリンピック・マーチ」の作曲を依頼されることになりました。アジア初の東京大会であることから、勇壮ななかにも日本的な味を出そうと考え、曲の初めははつらつとし、終わりの部分でオリンピックの日本開催を象徴するために「君が代」の一節を取り入れました。「私の長い作曲生活の中で、ライフ・ワークというべきもので、二世代の作として精魂込めて作曲しました。華やかな舞台を盛り立てるにふさわしいもの」と自負しています。」と古閑は語っています。この自信の通り、マーチ発表後のオリンピック組織委員会には世界各国から作曲者の問い合わせが殺到しました。



「オリンピックマーチ」楽譜

古閑が誕生して百年以上が経った現在でも、古閑メロディは私たちに歌い継がれています。古閑は故郷、福島の人を大切にしていました。妻金子に「何でも福島なのね」とやきもちを焼かれたという逸話も残っています。生涯に五千曲も作曲した古閑ですが、福島市にゆかりのある曲として「阿武隈の歌」や「わらじ音頭」などがあります。「阿武隈の歌」は福島市を訪れた歌人若山牧水の歌に、古閑が曲を付けたものです。悠々とそびえる阿武隈山地や、田畑が広がる福島盆地を彷彿とさせる曲は、福島市の自然を知り尽くした古閑にとっては当然のことでした。また、福島市の夏の風物詩「長さ十二メートル、重さ二トンの大わらじを奉納する、福島わらじまつり」の「わらじ音頭」も古閑の手によるものです。（「わらじ音頭」を市民のみなさんで育ててやってください。」という古閑の言葉の通り、今では現代風にアップテンポにアレンジされた「ダンシングソーダナイト」として福島市の夏を彩る「わらじ祭り」を盛り上げています。

日本音楽史上、永きにわたり色褪せることなく燦然と輝く古閑メロディ。私たちはこれからも、古閑裕而を誇りとし、歌い上げ、継承していきます。



▲長崎の鐘 ロザリオ▼



として勤務していた敬虔なカトリック教徒の永井隆博士は、長年にわたって放射線を浴びた後遺症として慢性骨髄性白血病に侵され、その後長崎への原爆投下によって被爆してしまいます。最愛の妻を原爆で失いながらも、被爆者の救助活動に従事した永井に感銘を受け、古閑は「長崎だけでなく、この戦災の受難者全員に通じる歌だと感じ、打ちひしがれた人々のために再起を願って、『なぐさめ』の部分から長調に転じて力強く歌い上げた。」と述べています。永井はこの曲を大変喜び、古閑と何回か書簡のやりとりを重ねる中で、昭和二十四年の終戦記念日に、病床の中で自ら編んだ木綿製のロザリオと、短歌を添えたマリア像の墨絵の奉書を贈りました。古閑もまた、その短歌に曲を付け返事を返しました。

生前の永井に会うことは叶いませんでしたが、格調高く、人間性にあふれた「長崎の鐘」は高く評価され、今でも長崎市民にとって、特別な歌として親しまれています。

菊田一夫とロビンを組んで大活躍

古閑は劇作家・菊田一夫とラジオドラマ「山から来た男」を皮切りに、菊田から音楽を依頼されるようになり、放送、演劇等二人三脚で三十六



菊田と古閑

「鐘の鳴る丘」の成功を受けて、引き続き子ども向けの番組として、菊田とのコ





## 古関裕而の音楽のふるさと ふくしま



古関裕而が満を持して上京を果たしたのは昭和5年9月の事でした。念願の大手レコード会社である日本コロムビア入社後は、東京を起点に音楽活動が続けていましたが、その心は常に郷里である福島にあったと言っても過言ではありません。妻である金子に「あなたは何でも福島なのね」と言わしめたように、古関の音楽人生を語る上で福島は基盤であり続けました。

それを裏付けるように、デビュー曲を「福島行進曲」「福島夜曲」にしたことは特徴的なことであり、これ以外にも福島に関する楽曲を多く残しています。

### 福島行進曲 作詞：野村俊夫(昭和6年)

昭和初期、各地の地名を入れた民謡が流行しました。その流れに乗って作曲したものが「福島行進曲」でした。作詞は同郷の先輩である野村俊夫。今は無き「福ビル」や「柳並木」などの当時の福島市の情景を悠然としたメロディに乗せたこの曲は、のどかながらも活気に満ちた福島を思わせます。

古関初のレコードの発売が正式に決まった時、記念すべきデビュー曲は故郷に捧げようとこの曲に決定した事を自伝で述べています。

### 福島夜曲 作詩：竹久夢二(昭和6年)

昭和4年、福島市で竹久夢二の展覧会が開催されました。その際「福島夜曲」と題し描かれた詩画に深く感動した古関は即興で曲を作り夢二に捧げました。その叙情的なメロディに夢二も大変喜び、全国的にも著名人であった夢二が、お礼代わりにと吾妻山を描いて渡し、古関もそれに感激し、これを機に文通・交流が始まりました。



### さくらんぼ大將 作詞：菊田一夫(昭和26年)

昭和26年、菊田一夫が脚本を手がけたラジオドラマの主題歌。舞台となった茂庭は山形・宮城県境にある山間の小さな村で、さくらんぼの産地でした。「僻地に住む少年の話をやりたい」という菊田に、とっさに思い浮かべたという茂庭を舞台にすることを古関は勧めます。古関が常に故郷を想っていた事がうかがえるエピソードの一つです。

### 福島音頭 作詞：野村俊夫(昭和29年)

作詞は野村俊夫、歌は本宮市出身の伊藤久男と、当時絶大な人気を誇った神楽坂はん子が加わり、昭和29年に制作されました。盆踊り用の曲で、野村俊夫・古関裕而の二人が福島市にプレゼントしたものです。



古関裕而のメロディに共通するのは、のどかな田園を思わせるような、日本の情緒があふれる、雄大でありながらも優しいメロディです。

古関は作曲をする際、「テーマや詩を前にして、その情景を思い浮かべる。すると音楽が浮かび上がる。」と自伝で述べています。そっと目を閉じたとき、古関の中に浮かび上がったのは恐らく郷里・福島だったのでしょう。市民を見守るように佇む信夫山、西には吾妻連峰、東には阿武隈山地。山々に囲まれた盆地を阿武隈川が流れる自然豊かな山里。そのような郷里の情景が、古関裕而のメロディを作ったのです。

古関にとって、福島は郷里であると共に、自身を育て上げた、まさに母なる大地であったに違いありません。

### 花のスカイライン 作詞：内海久二 補作：野村俊夫(昭和35年)

昭和35年、磐梯吾妻スカイライン開通を記念して作られた曲。作詞は公募から選ばれ、野村俊夫がそれに補作しました。日活映画「赤い夕陽の渡り鳥」の舞台にもなり話題を呼びました。



昭和35年当時のスカイライン (福島市教育委員会提供)

### 阿武隈の歌 作詩：若山牧水



大正5年、歌人・若山牧水が福島を訪れた際に詠んだ詩に古関が曲を付けたものです。

自身でも牧水を好み嗜んでいたという古関は、昭和22年に牧

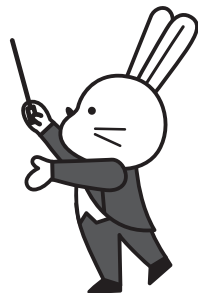
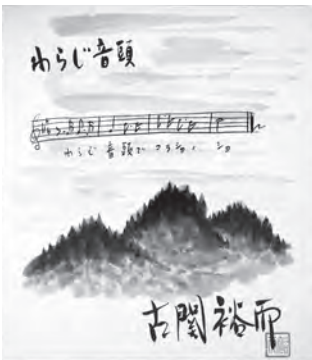
水の「白鳥の歌」をラジオドラマ用に作曲し、高く評価されています。

昭和41年4月、若山牧水来福から50年の節目を記念し阿武隈川河畔に歌碑が建立され、除幕式では古関本人が指揮を執り、大々的に催されました。昭和45年には古関のメロディを刻んだ「曲碑」も建立され、これは全国的にも珍しいもののようです。

### わらじ音頭 作詞：茂木宏哉 補作：丘灯至夫(昭和45年)

昭和45年から始まり、福島の夏の風物詩となった「わらじまつり」のために作られた曲。軽快なメロディは観衆の心をも躍らせます。

福島民友新聞記者の取材に古関は「わらじ音頭も市民みなさんの手で育ててやってください。」と語っています。その言葉の通り現在のわらじまつりでは、わらじ音頭を現代風にアレンジした曲調で踊る「ダンシングソーダナイト」が開催されます。



## 歌い奏で継ぐ ふくしま

古関メロディをレパートリーに持つ団体からコメントをいただきました♪

### 福島県立福島商業高等学校吹奏楽部



古関裕而さんの母校である福島商業高校には、校歌や青春歌など古関裕而さんが作られた曲がいくつかあります。

福島商業高校吹奏楽部では、これらの曲を入学式、始業式や終業式、卒業式などの節目の時に演奏しています。学校行事以外の場でも、「栄冠は君に輝く」などの有名な曲も演奏しています。

校歌や青春歌の演奏をする時は、「若き心」という校歌の題名から想像されるように、明るく元気な曲なので、リズム感を大切にして弾むように、また青春歌はゆっくりとしたテンポでかつ爽やかな曲なので、音を響かせることなどを心掛けて吹くようにしています。

これからも古関裕而さんの母校である誇りを持って、福商らしい迫力のある演奏ができるように頑張っていきたいと思います。

### ご紹介 福島市古関裕而記念音楽祭



福島市教育委員会では、古関裕而氏の偉業を記念し、永くその功績を後世に伝えるとともに、福島市から全国への文化の発信をめざし、『ふるさと創生事業』として平成3年度からこの事業が始まりました。

「福島市古関裕而音楽賞基金」(平成2年7月施行)を創設し、当初は、3年に1度、新しい楽曲を創作・発表する「古関裕而音楽賞」を実施。中間年は記念音楽祭を開催しました。平成3年、6年、9年、12年の計4回にわたる「古関裕而音楽賞」では、合計40曲の音楽賞曲を世に発表してきましたが、平成13年度以降は記念音楽祭を中心に開催しています。

福島市市制施行100周年を記念した平成19年度の記念音楽祭は、交流都市の川崎市でも開催され、古関メロディ及び福島市を全国に発信し、古関裕而生誕100年を迎えた平成21年度以降は、市民参加型を基本とした記念音楽祭が開催され、福島市ではこの音楽祭を核とした「古関メロディの継承」に取り組んでいます。

### 福島ハミングコール

郷土福島が生んだ大作曲家・古関裕而先生を礼賛する仲間が集い、平成9年に、古関メロディの啓蒙普及、そして永く歌い継いでいくために結成した混声合唱団です。

更には、生涯に5,000曲にも及ぶ作品の中には、未発表の曲が数多くあることから、これらを掘り起こし、機会あるごとに発表しております。

普段の活動は、古関先生の母校・福島県立福島商業高等学校同窓会や「ふれあいオパールコンサート」、古関裕而記念音楽祭などに出演しています。

特に、古関裕而記念館サロンコンサートには、毎年テーマを決めて古関作品を演奏しておりますが、平成27年11月に出演予定のサロンコンサートでは、「古関裕而 ふくしまをうたう」と題して、福島市及び福島県内ゆかりの曲目を準備しております。ぜひ古関裕而記念館で古関メロディを堪能してみませんか？



### 福島マンドリンアンサンブル



福島マンドリンアンサンブルは、昭和53年3月に発足しました。その後メンバーの転勤等により、昭和59年7月の福島市音楽堂の開館記念コンサート出演を最後に約20年間休部しておりましたが、平成14年から福祉施設への慰問を中心に活動を再開。現在は福島市内で毎年7月にプロムナードコンサートを開催するとともに、平成17年からは福島市古関裕而記念館からのお誘いにより、毎年2月に「マンドリンの夕べ」と題してサロンコンサートを開催させていただいております。

サロンコンサートでは、古関メロディを中心に国内外の様々な曲を90分に亘ってお聴きいただいておりますが、古関メロディのレパートリーも現在では約30曲となりました。古関メロディは、時には明るく、時には悲哀溢れるマンドリンの音色にとても良くマッチする曲ばかりで、編曲するたびに驚き、感動しながら楽しんでおります。今後も様々な機会に奏で継いで参りたいと考えております。

### 特別寄稿 秋川雅史 古関裕而記念音楽祭2015に出演

200年前、ベートーヴェンの音楽が流行の最先端だった頃は、その前の時代のバッハやモーツァルトの音楽は古い音楽でした。そこから時代を経てそれらの全ての音楽がクラシックという一つの大きなジャンルとして纏められ、歴史に残る名曲として語り継がれる事となったのです。

それから時は過ぎ、今から50年前、100年前歌謡曲の世界では数々のヒット曲が生まれました。それらをこれから先クラシックという音楽に位置づけられるかどうかは分かりませんが、確実に音楽の歴史に刻まれ、これから永く歌い継がれるであろうたくさんの名曲として存在しています。

その筆頭に古関裕而先生の名前を挙げる方も多いのではないのでしょうか。

私はクラシックというジャンルの音楽から歌の勉強をスタートさせ、これまであらゆるジャンルの音楽を歌ってきました。その中でも日本人の私にとって日本の歌は特別な存在であります。

古関裕而先生の曲は私の中でも中心的なレパートリーとなっており、特に「イヨマンテの夜」は、私の全てのレパートリーの中でも最も自分らしさを表現できる曲として、これまで何度もコンサートで歌い続けてきました。

そんな名曲の数々がこれから世界を誇る日本の名曲として愛される日が来る事を切に願っています。







**① さくらんぼ大将 六郎太少年像**【摺上川ダム】  
福島市飯坂町茂庭地区を舞台としたNHK連続ラジオ・ドラマ「さくらんぼ大将」（昭和26年1月～昭和27年3月）の主人公「六郎太」の少年像。戦時中に古関家は飯坂の知人宅に疎開しておりましたので、茂庭の風景が印象深く、ドラマの舞台となる候補地にこの地を挙げました。当時の茂庭はさくらんぼの栽培が盛んでした。

## ② 福商青春歌 歌碑

古関裕而は歌い継がれる秘密を「永遠の若さ」と述べています。昭和37年3月NHKが全国の5つのブロックからそれぞれ1校を選び、校歌・学生歌の特集をりましたが東北ブロックは福商の校歌でした。「作曲者は年々老いてゆくが作品は永遠に若い。これからも若い人々によって福商青春歌が歌い継がれてゆく事を望む。」と古関裕而は言っています。

## ③ 暁に祈る歌碑

暁に祈るは昭和15年に発売されました。作詞 野村俊夫、唄 伊藤久男、作曲 古関裕而と「福島トリオ」によるものです。野村俊夫は昭和41年10月27日に亡くなり、野村の功績を永く残そうと建立されました。

## ④ 旧祓川橋

古関裕而の先祖・5代目古関三郎治(古関家当主は代々三郎治を名乗る。古関裕而は8代目)が寄進したもの。安永年間(江戸時代後期)に架設され、祓川の水で身を清めた修験者がこの橋を渡り参拝しました。昭和45年に現在地に移設、昭和48年に福島市有形文化財として指定されました。もともとあった場所には石橋供養塔が建っています。

## ⑤ 福島市古関裕而記念館

TEL 024-531-3012  
福島市制施行80周年記念事業として昭和63年11月にオープンしました。平成21年4月から入館料が無料となり2階の展示コーナーには書齋が再現され各資料の展示の他、試聴コーナーもあります。外観は名曲「とんがり帽子」をイメージした建物で、9時と17時に古関メロディが流れます。  
■アクセス:JR福島駅東口 福島交通バス2・3番のりばより日赤前下車

## ⑥ 福島ふれあいパークカリヨン時計塔

【福島市保健福祉センター前公園】  
平成11年3月に福島市保健福祉センターの建設に合わせ、東側公園に時計塔が設置されました。季節によって流れるメロディが変わります。春は「福島第4小学校校歌」夏は「さくらんぼ大将」秋は「とんがり帽子」が時報として流れます。

# 古関裕而 ゆかりの地を辿る



## ⑦ 古関裕而生誕100年記念 モニュメント

【JR福島駅東口】  
福島市名誉市民第1号である古関裕而の功績と榮譽を讃えるため平成21年8月11日JR福島駅東口駅前広場にモニュメントが設置されました。8時から20時まで1時間ごとに古関メロディが流れます。



## ⑧ JR福島駅発車メロディ

【JR福島駅】  
古関裕而の生誕100年を記念して、平成21年4月11日より新幹線と在来線は発車メロディが古関メロディになりました。新幹線は「栄冠は君に輝く」、在来線は「高原列車は行く」が流れます。

## ⑨ JR福島駅西口駅前広場 モニュメント

【JR福島駅西口】  
昭和57年に設置されたモニュメントは、平成21年8月11日より8時から20時まで1時間ごとに⑦と同じ古関メロディが流れます。

## ⑩ 古関裕而生誕の地 記念碑

【福島市大町】  
古関裕而は明治42年8月11日福島市大町「喜多三呉服店」の長男として生まれました(現在のSMBC日興証券福島支店前)。平成10年5月にレンガ通り道路整備完成を記念して福島市大町に「生誕の地」の記念碑が建てられました。9時、12時、15時の3回「さくらんぼ大将」「とんがり帽子」「阿武隈の歌」が流れます。

## ⑪ 平和通り時計塔

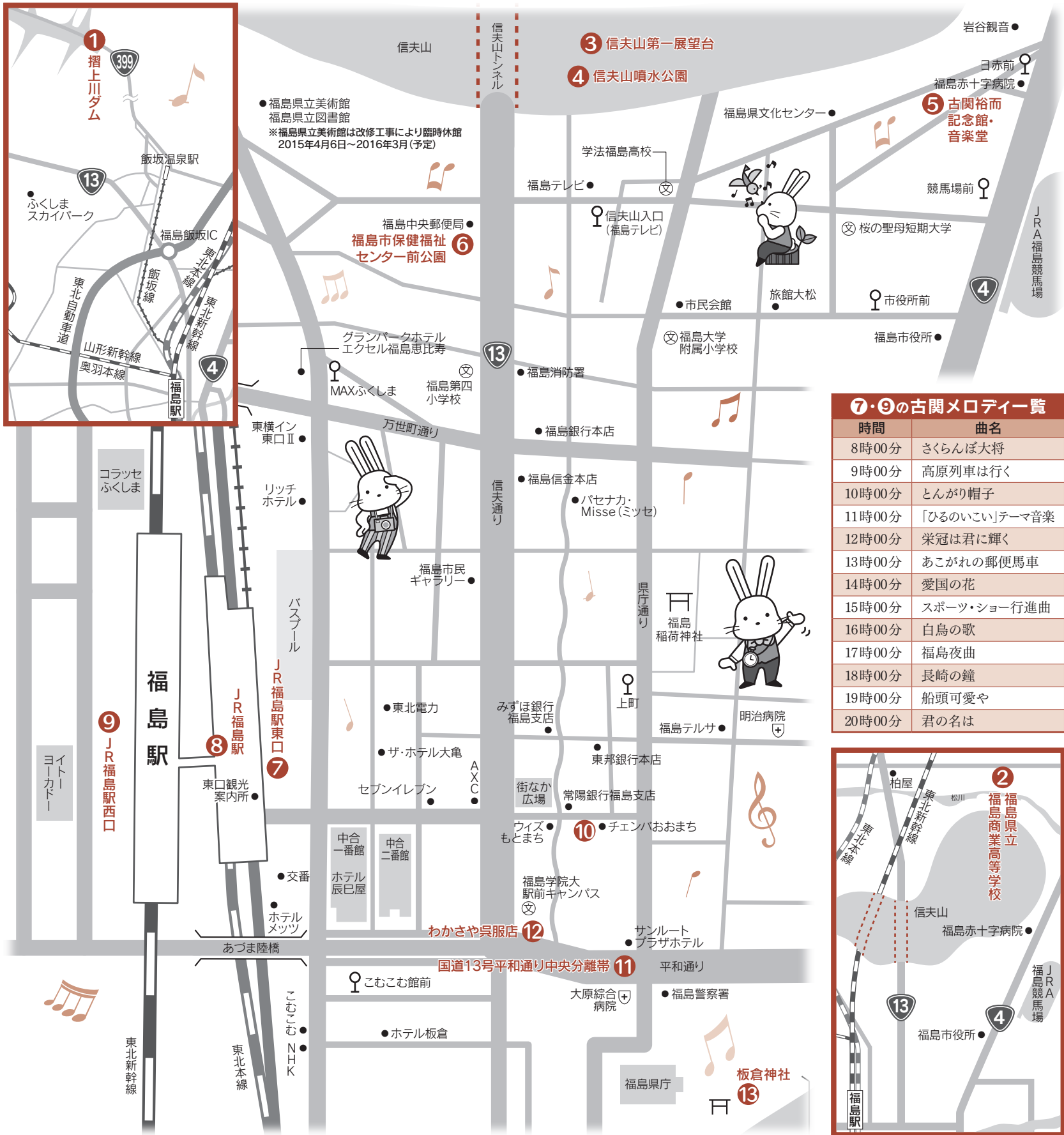
【国道13号平和通り中央分離帯】  
建設省福島工事事務所創立60周年を記念して昭和55年に設置されました。平和を祈るような合掌するデザインが話題となり「合掌の碑」と呼ばれています。「福島夜曲」のオルゴールが8時、12時、15時、17時、21時の1日5回流れます。

## ⑫ ポケットパーク

【福島市本町・わかさや呉服店脇】  
平和通り時計塔の復元を記念して平成19年に国土交通省により整備されました。メロディボックスが設置されており、「福島夜曲」「さくらんぼ大将」「高原列車は行く」をいつでも聞くことができます。

## ⑬ 阿武隈の碑 歌碑

【福島市杉妻町・板倉神社】  
若山牧水が詠んだ歌に古関裕而が曲をつけた歌曲「阿武隈の歌」が発表されました。牧水の記憶を永くとめようと福島県庁東側の板倉神社境内に歌碑が建立され、昭和41年4月29日に除幕式が行われました。古関裕而自身が指揮をとり女学生などの参加者による合唱も披露されました。昭和45年には楽譜を刻んだ「曲碑」があわせて設置されました。



| ⑦・⑨の古関メロディー覧 |               |
|--------------|---------------|
| 時間           | 曲名            |
| 8時00分        | さくらんぼ大将       |
| 9時00分        | 高原列車は行く       |
| 10時00分       | とんがり帽子        |
| 11時00分       | 「ひるのいこい」テーマ音楽 |
| 12時00分       | 栄冠は君に輝く       |
| 13時00分       | あこがれの郵便馬車     |
| 14時00分       | 愛国の花          |
| 15時00分       | スポーツ・ショー行進曲   |
| 16時00分       | 白鳥の歌          |
| 17時00分       | 福島夜曲          |
| 18時00分       | 長崎の鐘          |
| 19時00分       | 船頭可愛や         |
| 20時00分       | 君の名は          |

